

金田一春彦
■
日本語セミナー
四

方言の世界

筑摩書房

金田一春彦 | 日本語セミナー四

方言の世界

昭和五十八年三月三十一日 初版第一刷発行

著者 金田一春彦

発行者 布川角左衛門

発行所

東京都千代田区神田小川町二ノ八
株式会社 筑摩書房
電話 東京(三九) 七五二(営業)
東京(三九) 七五二(編集)
振替 東京六―四―一二三番
印刷・株式会社厚徳社
製本・株式会社永興舎

0380-76804-4604

Printed in Japan

乱丁・落丁本の場合は、ご面倒ですが小社読者係宛にご送付下さい。送料小社負担にてお取替えいたします。

方言の世界 目次

一 方言の魅力	五
くらしと方言	五
方言の魅力	三
二 方言の旅	三
関東人の言葉	四
中部のことば	六
奈良田郷のことば	八
民謡と方言	二
人間言葉さまざま	九

三	方言の辺境と中央	
	方言の文法	一〇七
	辺境地方の言葉は果して古いか	一〇八
	柳田国男先生と国語学	一〇九
四	方言の研究とその応用	
	方言研究の動向	一一一
	方言調査の方法	一一六
	方言から出生地をあてる法	一二七
	声のテープを聞いて——アクセントと方言の問題——	一三四
	標準語から共通語へ	一三五
	二つのアクセント辞典を	一四〇
	わたしの方言研究	一四九

二人の先生	二六九
金城さんの思い出	二七六
再生の恩人・西尾先生	二八三
〈付録〉 [*] 国語アクセントの地方的分布	二九〇
あとがき	三〇二

方言の世界

一
方
言
の
魅
力

くらしと方言

一 フェミニストの失敗

方言ということが話題になりますときは、たいてい方言を知らないために行き違いが起こったとか、あるいは何を言っているのかさっぱりわからないとか、そういう場合が多いようです。私の親しい友人で朝から晩まで女の人にもてていないと気が済まない男がいるんです。だれでも女の人にもてることは結構なことですが、この男ときたら極端でして、バスへ乗りますと、バスの車掌さんにもてたい、飛行機に乗りますと、スチュワーデスさんにもてたいのです。いつかその男の奥さんが入院しましたところが、その奥さんに付き添った看護婦さんにもてたくなりまして（笑声）、結局奥さんと喧嘩したようなこともありましたが、その男があるとき青森県の三戸地方さんどという方に出張で出かけました。

旅館にはいりますと、当然旅館の女中さんにもてたくなりません。食事になった。旅館の女中さんというものは忙しいものだということを承知しておりますので、食膳が運ばれてきますと、「君は忙しいだろうから、せめて食事の間だけでもゆっくり休みたまえ、御飯は僕が自分でつけ

て食べるから」と言いまして、お鉢を自分のそばに引き寄せ、女中さんを前に坐らせまして適当な嬉しげな言ひを言うわけですね。君は実にひなにまれな美人だとかいうようなことを言いながら御飯が一杯終りまして、さて二杯目に差しかけたときに、お鉢から御飯をよそったところが、その女中さんが急に「もっと減らしてけえろ、減らしてけえろ」と言ったのだそうです。せっかくなつたものを……この男考えたのですね、きつとこの宿屋では女中にふだん十分御飯を食べさせないのであろう、そのために彼女はおなががすいているのであろうと。そこで、よそった御飯を半分ばかりお鉢の中に返した。そうしたところが「なしてそうなんだ、もっと減らしてけえろ」と言うのだそうですね。少々残念だったようですが、せっかくよそったお茶碗の御飯を全部お鉢に返してしまつた。今でこそ皆さんは米食はからだに悪いとかいつてあまりあがらないかも知れませんが、当時はまだ戦争直後で御飯がまだおいしくてたまらなかつたときですから、大変残念だったのですけれども、食べ物への恨みはこわいとか聞いていますから、無理に我慢してそうした。

ところが、あとで聞いてみますと、その三戸地方では「御飯を減らしてけえろ」というのは、お鉢の御飯をもっと減らしてけえろということなんです。つまり人に食べ物を勧めるときに「もっと上がってください」という意味で、「もっと減らしてけえろ」と言うんだということがあとでわかつたそうであります（笑声）、その男は方言のそういう言い方を知らなかつたために、大変無理をして、かえつてバカを見たということになります。

もつとも、こういうことは私もよくやるのでありまして、いつか石川県の能登半島に行きましたところが、ある家でお汁粉を振舞われた。私はどうも甘いものに弱いものですから、一杯のお汁粉を食べかけても余していたのですね。そうしたら、そこうちの奥様が、なにか私がいまがっていると思っただけらしい。お砂糖のツボを片手にもって「そのお汁粉は甘いですか」、こう聞かれた。私は甘過ぎるくらいに思っていたところですから、「甘いですとも」と答えた。そうしたところが、その奥様が何と思ったか、さじに一杯砂糖を盛って私のお汁粉に入れてしまったのですね。どうしたのかと思っただけところが、あの地方では「甘い」というのは、もの足りないという意味なんだそうです（笑声）。たとえば「監視が甘い」とか、「釘が甘い」とか、そういう「甘い」という使い方がありますが、奥様は私どもの足りながっていたと思われたらしい。それでは、その時甘くて大変結構だということを表わすにはどういえばよかったかというところ、「これは大変くだいです」と、こういうとほめることばになったのだそうです。私はとんだ失礼なことを言ってしまったわけでした。

二 さっぱり意味のわからない方言もある

また地方によっては随分珍しいことばもあります。長野県の松本地方に行きますと、「いちやつく」ということばを何かあわてる意味に使います。私が松本の男とあるとき待ち合わせの約束をしましたところが、その男が少し時間におくれてあわててやってきた。ボタンもろくにかけな

いで、汗をふきふきやってきた。どうしたのだといったら、「今そこでいちゃついてきた」というのです（笑声）。私は何というエチケツトに反することをいう男もいるものかと思つたところが、聞いてみますと、「いちゃつく」というのは、あわてるといふことでありまして、この男はむしろ良心的であつたということがわかりましたが、ああいった方言はとかく誤解を起こしそうですりませぬ。

そうかと思ひますと、遠い地方に行きますと、全然ことばが通じないということもよく起こります。秋田へ行つて宿屋に泊つていたところが、朝、窓の外を何か物売りが通るのでせうね。何と言つてゐるかという、「ガネー、ガネーガネー」こう言つてゐる。これは何を売つてゐるのかわからない。まさかお金を売つてゐる商売もないだらうと思つたので、聞いて見たのです。そうしたところが、カニを、サルカニ合戦のカニがありますね、あれを売つてゐるのです。それも人に教へてもらつたところによりますと、「かにー、かに、かに」といつてゐるのじゃないのだから「カニー」といつてから、「買わねえかね」こういつてゐるのだせうです。これをちよつと聞きますと、「ガネー、ガネガネ」と聞こえます。さっぱりわからない（笑声）。

東北の秋田県に対して、九州は長崎県の一帯西の五島列島という島があります。あそこに参りますと、たとえば、こどもが海から帰つてきて、「ミンのミンにミンがいつた」、こう言うせうです。これはむずかしい。「ミンのミンにミンがいつた」、何かセミでも鳴いてゐるようですが（笑声）、これはどういふことかといひますと、最初の「ミン」といふのは、「右」です。次

の「ミン」は耳です。それから「水」。つまり「右の耳に水が入った」こういう意味なんです。この地方では、はねる音がたいへん好きでありまして、みんなはねてしまうので、「ミンのミンにミンがいった」、こう言って泣くわけです（笑声）。こういうことがたくさんあります。

三 方言は国の手形

もつとも方言といえますと、例の吉展ちゃん誘拐事件では、方言、地方ナマリが非常に多く人の注意を集めました。NHKの社会部の方に伺いますと、あの犯人の郷里がどこだということを手紙がたくさんきたようであります。二百通か、もつと来たのかと思いますが、しかもその中には犯人の郷里の推定をやっておりまして、あの犯人は私の郷里の者に違いないというようなことを言ってきたのが二、三十通もあるそうですね。中には、私の死んだ親父の声にそっくりで、なつかしかった（笑声）、などというのもあったという。私、これには大変感激したんです。と申しますのは、元来ああいった悪質の犯人の声、あれを自分の郷里の者だということには相当の勇気が要ります。そういう人たちは良心的な方だと思ひ尊敬いたします。こういう人がたくさんいれば、きつと犯人の郷里が見つかるに違いないと思うんですが、なかなかそれがむずかしい。

と申しますのは、あの犯人の声は自分の郷里のことばだというのが五つの県からきているのです。茨城県、栃木県、福島県、宮城県、山形県、よほど犯人の声は人気があるらしい。こうなりますと、一体五つの県のうちのどこであるか、なかなかむずかしいと思います。私個人の考えで

は、新聞にも書きましたが、どうも栃木県の東のほうじゃないかと思う。ここに芳賀郡という郡があります。その人じゃないかと思っています。何か芳賀郡の人にうらみがあるようですが……（笑声）。そういうわけではありません。芳賀郡何万人の中に一人だけ心得の違った人がいて、その人だと思っわけです。

上野を六時三十三分に、一日にたった一本だけ、その芳賀郡に真岡まおかという町がありますが、そこ行きの準急が出る。私は吉展ちゃんをさらって六時三十三分の汽車に乗って、真岡のほうに行ったのじゃないかと思うのですけれども、これはいささか無責任時代めきますから、このくらいでやめますが、ともかく方言が非常に多くの人の関心を集めた事件でした。

そういうわけで、方言というものは行き違いの起こったときしきりに問題になる。それからまた、だれかの郷里をあてるようなときに、役に立つことがあります。しかし、そういったことのために方言というものは存在するわけではありません。もしそういったことのために方言が存在するならば、方言なんていうものは実につまらない。あってもなくてもいいようなもの、あるいはない方がいいものということになります。方言というのは、それ以外にもっととりっぱな値打ちを持っております。

四 万丈の氣を吐く方言

きょうはそういった方言の持っている値打ちについてお話したいわけでありますが、たとえ

ばわれわれが学校で習います日本語、あるいはNHKのアナウンサーが使っております日本語は標準語といいますが、方言は標準語にないような良い言い方をたくさん持っております。明治・大正の文豪に森鷗外という人がありましたが、あの人はお医者さんですね。ドイツ語のよくおできになる方でありましたが、その森鷗外の書いたものにこういう一節があります。日本語には苦痛を表わすことばが一つしかない。「痛い」というのしかない。だからたいへん不便だというのです。これがドイツ語ならば、「痛い」ということばがたくさんあって意味が少しずつ違うそうです。ですから、お医者さまが患者を診察する場合に、たいへん都合がいいんだそうですね。たとえば医者がかこはどうだとたずねますと、患者がかこは何とかだとドイツ語でいう。お医者さんがははあ、これは盲腸炎ですとちゃんとわかる。もし患者がかこがかんとかだ、こういうと、これは肋間神経痛、ちゃんとわかるのだそうです。ところが日本人を診察してみますと、みんな「痛い、痛い」ばかりで、何とかの一つ覚えというやつであります、さっぱり見当がつかない。こういうことをいっている。

そこまではいいんですが、さて、その次に鷗外先生、「わが郷里石州津和野においては……」というのですね。「石州津和野」というのは、島根県の西の一番はずれであります、そこには「痛い」を表わすことばが四つもあるのだそうです。一つは、「はしる」というのだそうですが、これはたとえば虫歯が痛いときのように、きりきりと一カ所だけ痛い意味だそうです。その次に「うばる」というのがありまして、これはどういのかといいますが、鈍痛といいますが、何か